

No.	問3-10-1 肝炎に感染していることを知った当時の気持ちーその他
113	肝炎と知り、医者からインターフェロンをしないと、後には肝硬変になり、その後は肝ガンに進行する」と言われた時には、絶望的な気持ちになり、「死」が常に頭から離れない日々でした。しばらくは誰にも言えず、泣くことしかできなかった。私なりに少しずつ本を読み、インターフェロンが全てではないと思うようになったり、この病気と仲良く生きていこうと思ったり、感情に波がありました。
114	とにかく将来の不安が大きく、いつまで生きられるのか、ガンになるのでは・・・と、いつも頭から離れない生活を送っていた。せめて、子供が成人するまでは生きたいと思うことが、生きる望みだったと思う。いつも検査数値に一喜一憂しながらの生活は、苦痛そのものでした。
115	運良く(?)急性肝炎で発症していることが分かりました。当時、長男(小学1年生)、二男(生後1ヶ月)と離れて、入院生活をしていました。その時の色々な心配。義母や実姉に子供達の面倒をみてもらっていたが、父親と子供達の関係も(躰を厳しく言う人だったので)心配で、居ても立っても居られぬ状態でした。
116	まだ10代だったため、とても苦しかったです。
117	体もそうですが、心もボロボロになった時があります。みなさんもそうだと思います。何をすることも元気がなければできません。子供の運動会には行けず、大人になった子供に「大人はうそつきだ。僕はそう思う」と言われ、返す言葉もなく。私も一生後悔して生きることとなりました。
118	死への恐怖。子供がまだ小さかったので、将来への不安。ただただ泣くことしかできなかった。
119	それまで病気をしたことがなく、健康な体に産んでもらった親に感謝していたが、一生付き合っていかなければならない病気になり、病気が進行してガンになるかも知れないと思うと不安で、親に申し訳ない気持ちだった。3人の子供のためにも治療をして、早く元気な身体を取り戻したいと思う反面、ほとんどが治らない病気と聞いて、悔しく不安な思いだった。
120	どっちみち死ぬのに・・・。一時は意欲がなくなったことを思い出した。
121	当時は子供を産んだばかりで、新米ママとして頑張るつもりが、退院後1ヶ月入院。肝炎の病気がどんな病気か知らず、すぐ帰宅できるものと思っていたが、数値がなかなか良くなり、子供にも会えず、何でこんなことになったのか、何度も暗くなってから泣いた。数ヶ月後、母が会いたいだろうと娘を連れてきてくれたが、この頃になると、うつる病気なのかも知れないと思い、すぐに娘を連れて帰ってもらった。久しぶりに見る娘は、キャリアバックいっばいに背が伸びていて、ビックリした。可愛い娘に何もしてやれず、とてもつらかった。
122	その当時は、体調が変化しなかったので、特に感じなかった。ただ、病院に定期的に検査に行くのが、時間をとられるのでいやだった。
123	知った当時は娘が高校1年生で、私立女子校ということで、お金もすごくかかっていました。又、仕事も忙しく、自分の事より、しなければならない事の方が多かったように思います。
124	C型肝炎だと言われてもピンとこない。今度は、病院で検査したら肝硬変。先生の話もよく聞かえず、何を言われているのかすら覚えていなくて、家に帰るまでボーッと怖くて眠ることができず、あっちこちの病院の先生に話を聞いてもらい、やっと落ち着いた。C型肝炎の治療にインターフェロンがいいと病院に行ったら、私には無理だと言われた。だから、治療していません。
125	出産し、親となった喜びもつかの間、体調を崩し、5ヶ月の入院生活を送りました。主治医から告げられた病気の事。特効薬もなく、確実に寿命は10年位縮まるであろうとの説明に、泣き崩れた時のことは、今でも忘れられません。ベッドでの安静生活の中、考えるのは「どうして?なんで?これからどうなるの?」、そんな事ばかりでした。子供も抱けずに辛い日々でした。21年以上経っても昨日の事のように思い出される。思い出したくない出来事です。
126	なっていたんだなと思ったが、親が肝炎になっていない事は、すごく嬉しかった。不安で仕方がなかったですが、逆に、周りが厳しく、自分だけが不幸じゃないし、一番苦しいのは母だと思った。
127	本人が知的障害者のため、親の心配や動揺で、不安は感じていたようだが、質問のような細かな感情は特になかったと思う。
128	11年前の出来事で、現在は完治していますから、あてはまらない答えが多くなりました。家族や兄弟の協力も強く、私の性格が明るいのが幸いしたと思っています。
129	家族の協力がないと、肝炎とは聞えないですね。現在治療中です。
130	10才の時にどう感じていたか、正直覚えていません。ただ、自分の仕事(役目)として、病院で検査を受けていました。
131	・肝炎になったのは悔しかったが、私には子供が3人いる。なんとかして、子育てをしなければならないという気持ちがあった。 ・話を聞いてくれる友がいたことが救いだった
132	医療の進歩に大きく期待しています。インターフェロンもそのうち内服で済むようになれば、痛い思いをしなくても済む。
133	治療して治らなかった時、自分にもしもの時に、子供の事が心配だった。
134	感染者以外には、理解できないと思う。
135	初めての病院に行く時、問診票にC型肝炎と記入するのがいやだ。特に歯科、外科。

No.	問 3-10-1 肝炎に感染していることを知った当時の気持ち－その他
136	・第2子、第3子をもう出産していたので、子供に感染していないか、とても不安だった ・今後、病気が進行し、家族にどの位迷惑や心配をかけるか不安だった（体調や金銭面）。
137	ウイルスが検出されなかったので、検査をした医師に、「もう完治していて、普通の人と変わらない」と言われたが、本当に再発する可能性がないのか不安だ。
138	できるだけ進行を遅らせて、少しでも長生きをしたい。子供もまだ結婚していないので。
139	肝炎に感染している疑いがあると知らされた時は、それほど深刻な病気であるとは思っていませんでしたが、黄疸が出たりして、苦痛な病気だと思いました。
140	大工という体を使う仕事をしていましたが、体を気づかうあまり、休みがちになってしまった。忙しくても体が思うように動かず、仕事ができなくなる不安でいっぱいでした。
141	自分が肝炎になるとは夢にも思わず、ショックで夜も眠れない日々が続きました。まして家族（嫁、孫達）に理解してもらえるのか、同居したばかりだったので不安で、今でも心配しています。

問 3-10-2 最近数週間の気持ち－その他

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ち－その他
1	職場の上司に、この病気の事を伝えてある人は何人かいるが、健康管理の担当の方が変わるたびに、知られてしまうのが辛い。誰も病気の事で「辞めた方が・・・」と言う人はいないが、本当にこの職場にいていいんだろうか？自分から辞めるといふのを、待っているんじゃないかと、時々不安を感じる時がある。
2	もう入院したりしたくない。元気で毎日過ごしたい。今、39才ですが、肝炎になって17年なので、進行していくことが怖いのです。
3	今はGOT、GPTがいいので、少し安心している。年4回検査をしているのが苦痛。でも仕方がないですね。今は、検査しかないなので、いつまでもGOT、GPTがいいように願います。
4	肝炎感染が判明した当時は、炎症の進行により、肝硬変、肝癌に移行するとしても、20年以上先の事だと思っていたが、既に27年が経過し、これから先どうなっていくのか心配です。エコー検査の度に、癌ができていないかドキドキしてしまいます。身内に肝硬変から肝癌になって亡くなった人が3名いる。その亡くなり方を目にしているから、余計に心配である。医療従事者でも、肝炎について正しい知識が徹底していないと感じる。特に、歯科では必要以上に、医師への感染を恐れられている気がする。
5	会社勤めもなくなったので、今度は身体が悪くなったら安心して入院することにします。給付金を有り難うございます。とても嬉しいです。いただけるよう努力して下さった方々に、感謝しています。
6	告知直後から現在まで、放置し続けてきた国に対しての怒りに、変化があるはずがない。
7	インターフェロン治療後、ウイルスが検出されず、半年に1回程度の検査のため、今は前向きに病気と付きあっている。
8	インターフェロンの治療のお陰で治癒したため、現在は、あまり病気だという意識は持たなくなれた。しかし、いつか再発するのではないかと不安は、いつも心の中にある。
9	来年、インターフェロン治療を予定しています。副作用、薬の効果等、とても不安です。ウイルスが1Aというデータが、あまりないのも不安の一つです。
10	子供達も成人し、これからは今まで私を育ててくれた母（81才）の世話をしなければならないので（今の事が分からない、物の区別、分別もつかなくなってきた）、死んではいけないが、内心は疲れる。前向きに生きようという気持ちは十分あるが、体力、気力が追いついていけない時もある。
11	何をすることも根気がなくなり、長続きせず、飽きっぽくなってきた。人生の楽しみもなくなり、この先のことを考えると、何のために生きているのか・・・もう、嫌になってきた。もう終末だと考えることがあります。
12	和解金も、自分のためではなく、家族のためにとっておく。治療もしたいが、一度仕事を辞めなければならず、治療後の仕事のことが心配。又、治療しても完治するとは限らない。
13	現在は、ウイルスが検出されないが、今後のことには不安がある。
14	平成19年、夫は癌で亡くなりました。それまで、経済面で支えになってくれたのですが、会社も左前になり、治療費とローンで途方に迷いました。C型肝炎の症状で、経済力等何の役にも立たないと思っていましたが、私がやらなければ掃除パートをしていたら、少しずつ底力が出るようになりました。しかし、出費をまかなうことはできず、借り入れしてしまうことになりました。今は1人で、誰も支えになる人も特にいませんが、自己管理に努めていますが、不安がまったくないわけではありません。
15	弁護団、原告団の皆さんと励ましあひながら、気持ちを楽にできたと思う。治療の講演会などに参加でき、少しずつ希望と元気をいただいた。
16	現在はインターフェロン治療中でウイルスが消えているが、いつまた発症するかもしれないという不安はある。ただ、受ける前よりは、将来に希望が持てる。
17	疲れやすい、夜起きていられない。早く寝るわりには、疲れがとれない。自分がやろうと思った事が、疲れていてできないことがある。イライラする。このサイクルの悪循環で、ストレスがたまる。家族にあたってしまうことがある。そして落ち込む。最悪。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ち—その他
18	あきらめ
19	3 回のインターフェロン治療で、今は落ち着いているので、このままであってほしいと思っています。肝炎になったのが 29 才で、30 代、40 代という人生で充実した時期であるはずの時を、肝炎治療中心に過ごさなくてはならなかったのが、残念です。子供達の成長を心の支えに、頑張ってきたという感じです。ですから、インターフェロンでやっと落ち着いた体調が、このままであってほしいと切に思います。治療中、家族、特に子供に「ママが死んじゃったら」という、他の子のしない心配をさせたことが、可哀相でなりません。今現在は、家事もこなせているので、治療の大切さを感じます。でも、経過観察中で採血するたび、数値が気になる生活から抜けられないのは、負担に思います。
20	朝夕夜中と体温計を見るたび、今は良し、また熱かと弱気になってしまい、微熱が続き、朝目覚めた時は、今日も命を頂けたと感謝です。ここ 1~2 ヶ月前より、腹部に水が溜まりはじめ、予約日外に、近くの医院に事情を話し、エコー、点滴を受けている。
21	私は 1 型と診断され、インターフェロンの治療も、高齢で難しいと医師から伝えられている。
22	仕事ができなくなったら、どうしたらいいのか不安。
23	現在、インターフェロン治療中なので、身体的にはとても苦痛だが、希望を持っている。
24	最近送られてきた肝炎の本で、同じ時期に C 型肝炎になってインターフェロン治療を受けた方の経験を読み、自分はインターフェロンは受けないという選択をして、まあまあ元気で生活も楽しく、親の介護を 10 年やり、子供を 2 人育ててこれて、幸せなのがあった。治療の選択は、とても重要な事だと思いました。
25	H21.5.1 より 3 回目のインターフェロンの治療中です。72 週の予定ですが、白血球、血小板、好中球が減少し、ギリギリの状態での治療です。全身の倦怠感、かゆみがひどく、辛い治療の毎日です。
26	進行が進み、死を待つのみです。
27	第 2 子の男子が、ウィルスは発見できないが、体内で感染したことがあるということで、少し不安に思っている。
28	治療法の進展に希望を持ちながらも、同時に不安を抱えている日々です。
29	最近、肝臓が悪くなっているのので、糖が 200 位になってしまって、困っています。インターフェロンでは完治しないと聞きますので、私はやらずに死のうと思います。
30	今後の病気の進行具合がとても気になる。
31	最近になって、急に気持ちが変化するということはありません。1 日として、肝炎の事を忘れて過ごす日はありませんが、一時期のように、思い詰めるということもなくなりました。私はウィルス量が多く、1B 型と治りにくいタイプなので、来年行う予定のインターフェロン治療も、あまり期待しないようにと、医師に釘を刺されています。苦しい思いをして、治らなかった時のことを考えると、不安になりますが、チャレンジしてみようと考えています。
32	子供も大きくなりましたが、欲は続くもので、孫を見るまでは元気でいたいと思います。これからは段々悪くなる道を歩んでいくでしょうから、少しずつ身の回りの整理も始めようと思っています。
33	インターフェロンの辛い治療を、今年の 1 月まで受けました。今はウィルスが検出されない状況ですが、患者会の人から、再発したとの情報も多々あり、私も再発することがあるのか？不安は尽きることがありません。
34	今は、完治目指して前向きに進もうという気持ちはあります。しかし、一度再燃しているため、不安はあります。
35	検査をするたびに数値が気になり、いつ肝硬変と言われるか不安である。いつも肩こり、腰の痛みがあり、マッサージや気功治療を受けている（年に 3、4 回）。保険適用になれば良いと思う。
36	非 A 非 B 型肝炎と知らされた時は、どのような病気かピンとこず、禁煙をして、酒は週に 2 回ビール小瓶と言われ、5 年ほど辛抱しましたが、慢性肝炎と言われ禁酒。食事でも油脂類や塩分、その他肝臓に悪い物は食べないよう指導され、今も不自由な生活をしております。
37	ペガシス、コペガスの治療中だが、ウィルスがなかなかマイナスにならない。1b の私は、効果がないのかと不安になる。肝硬変から肝ガンの治療を DVD で見たら、麻酔が効かないとか。10 分間、地獄の苦しみを味わってしまった。ガンが 1 つできれば、また次々にできるとかで、そういう話を聞くと、耐えられなくなり、不安になり、誰とも（友達）付き合いたくなくなり、死んでしまいたいと時々思います。20 年も経ったので、とても不安です。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ち—その他
38	16年前、1回目のインターフェロン。7年前2回目。インターフェロン+レボトール治療を受け、ウイルスがマイナスとなり、現在までマイナスが続いている。しかし、2回目は1回目と段違いに副作用が強く、76本で中止しました。特に、食物アレルギーが極度に悪くなり、何を食べていいのか分からず、ノイローゼ状態でした。●●時代の主治医が、アレルギーの専門医なので受診。カモガヤのアレルギーが血液検査で判明。食事指導を受け、アレルギー対応の食品を取り寄せ、●●のアレルギー専門医に体質改善と症状緩和の薬を処方してもらい、少し改善される。しかし、外食はできず、家で気をつけて調理したもので、アレルギー反応がでて、起きてられない時があり、勤務交替してもらうことも時々あり、良い方法かないかと探していた時、電位治療器の体験会にであい、40回通って、症状が今までより改善されたのを実感したので購入。自宅で1日1時間特殊電子療法（フットケア）を続けているうち、体力もついてきて、アレルギー症状も前よりずっとやわらいできて、少しずつ食べられる食品が増えた。漢方薬を飲むことも、少なくなりました。しかし、1日中食べる物に気を使う状態は続いていますし、特に、好きだった果物（りんご以外）は食べられず、甘い料理、菓子、佃煮等はいまだにダメで、ビート糖を使って、自分で調理したものでないとダメ。ウコン、あくの強いもの、血合いの多いもの等、量と回数を考えなくてはならず、レトルト食品、半製品、大豆油を使ったもの等、まだまだ気にしなくて良い生活にはほど遠いです。老後のことを考えて（施設では、複雑なアレルギー対応の食事は作れない）、自宅でヘルパーに来てもらい、私が大丈夫だと思える食材と調味料で作ってもらうしかないかなど、老人住宅を建てました。安保徹さんのアレルギーの考え方、自己免疫力の本を参考に、主治医は自分だと思ふようになりました。しかし、肝炎にならなかつたら、こんなことにはならず済んだのにとの思いは、一生消えることはないだろうと思います。
39	肝炎に感染した当時の気持ちと今の気持ちに、ひらきがあると思う。感染当時はまだ若く、治療薬の開発の期待があり、まだまだ生きる意欲がありましたが、長年の経過により（23年）、自身の病状も一段と進み、「いよいよの時」を意識し始めて、絶望を感じることもあります。ただ、この事実を受け入れるしかないの、いろいろな感情があっても、前向きに生きていこうと思っています。相変わらず、家族には迷惑をかけていますが、そのことはずっと申し訳なく思っています。こんな薬害が二度と起こらないように、皆で知恵を出し合って、薬害防止に取り組んでいきたいと思っています。
40	C型肝炎のCMが気になるが、また毒を入れられるのではないかな不安。
41	今、インターフェロン投与中で、ウイルスは消えています。でも、インターフェロンを終えたら、またウイルスが復活するのではと、不安でいっぱいです。副作用もきつく、止めたいと思う時もあり、新薬ができるのを待っています。
42	今は数値も平均になりました。やはり、自分でインターフェロンとか治療に専念したので、治ったと思いますが、家族の協力なくしては、できませんでした。仕事を辞めたり、子供に迷惑をかけたりした結果です。
43	近年は、インターフェロン治療などで、ウイルスを排除できる薬が開発され、治る人が増えてきました。これからの薬のより向上によって、私も治るのではないかと、期待を持っています。甲状腺の異常、シェーグレン症候群をずっと患ってきました。それが原因で、今年目がぶどう膜炎に罹り、緑内障を発症してしまいました。失明の危険を伴う状態でしたので、内科医が慎重になり、インターフェロンの治療は、暫く見送るということになってしまいました。GOT、GPTの数値は良くなっているのですが、肝炎発症から22年の年月は、体に大きな負担を与えていると思います。
44	H21年4月から強力ミノファージェンを毎日打っています。今までも、数値が上がると強ミノを打ってきました。ウルソも服用した時期もありました。医者は、強ミノが効いていると言っています。金額もそうですが、毎日通院することは、仕事にも支障をきたし、仕事柄、人目を避けながらの治療は、非常に辛いです。かといって、インターフェロン療法をするには、仕事を辞めなければならない状況にあり、医者にインターフェロンを勧められていますが、現実は無理です。もう、血管も見えなくなってきましたので、生活の保障がない限り、今の私には、インターフェロン治療はまだ「夢」です。
45	一度は感染して肝炎治療をしましたが、治療後は健康状態も良く、数年前までキャリアとして過ごしてきました。いつウイルスが活動を始めるのか、びくびくしながら生活してきました。幸いにして、ウイルスは現在マイナスですが、絶対大丈夫という保障はありません。これからもこのままウイルスがマイナスのままであるように祈りながら、生きていきたいと思っています。
46	肝炎になって20数年。なかなか治らない病と知るにつれ、改めて肝炎の恐ろしさを感じる毎日です。
47	今回が3回目の治療となるが、過去2回のインターフェロンだけの治療と違い、薬に体が慣れて、薬になったのと違い、ひとつ副作用が軽くなったと思えば、別の病状が現れ、来年の8月一杯まで、このまま仕事は続けられなくなるのでは（時間も短いし、周りに助けられながらやっちはいるが）？と、いつもそういう思いになりながら、仕事をしている状態です。自分は治りたいので、この治療を頑張っているんだろう？と、自分に言い聞かせながらも、一方では落ち込んだり、精神的に不安定です。
48	嫁に、「うつったら困るので、孫にキスとかしないで下さい」というような事を言われた。血液でしか感染しないというのを、もっと伝えてほしい。
49	インターフェロン治療をH8年に6ヶ月、H18年に5ヶ月受けました。現在はウイルスが消え、経過観察中です。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ちーその他
50	原告を守る国の責任上、支援法の内容が最も関心がある。
51	感染時より良い医師に恵まれ、完全には治りませんが、いろいろ相談にのってもらい、インターフェロンの治療も3回受けることができました。主人にも、精神的にも経済的にも助けられています。やはり、肝臓専門医に診てもらおうのが、一番安心だと思います。最新の情報も教えてもらったり、講演会なども開いてもらっています。大変有り難いです。病気になってしまった以上、相談できる人がいることと、経済的な安心が一番の問題だと思います。
52	今の体調がずっと維持でき、生涯終わることが一番ですが、肝機能も年と共に低下する。それがどのような状態になるのか、すごい不安です。今は家族の心配もでき、安心していられますが、進行した時の自分は耐えられるだろうか、今は原告の人達とメールでお互いに話している。今は、先の事は考えずに、1日1日を大切にしています。
53	1年のインターフェロン治療を、今年6月に終了。ウィルスは残念ながら消えなかったが、落ち着いた現状が、この先ずっと続けばいいと思いつつも、やはりチャンスがあれば、ウィルスを完全に消したいと思っています。100%に近い完治のできる薬を作っていただきたいです。
54	最近、2回目のインターフェロンをいつ頃始めるかと悩んでいます。主治医には、患者自身に任せる(数値が悪くないため)と言われている。明日にでも始めたい気持ちだが、今現在のような体力に戻るのには、投与の何倍もの月日がかかるので、それでためらっている。そのため、気持ちが落ち込んでいる。
55	今現在、インターフェロン治療で治癒したので、こういう回答が私にはできますが(問3-10-2)、現在も病気を抱えている方は、これから将来、病気を受け入れて、前向きに生きていくことになるのです。そう考えると、1日でも早く、1人でも多くの方に治療を受けてもらい、治っていただきたいと思っています。
56	私の38年間を返して下さい。私の健康を返して下さい。肝がんと手術を2月に受けてからは、検査結果を聞くまでの気持ちは、以前とは全然違います。切羽詰まった状態で、後がありません。完治は考えられず、現状維持が最善の方法です。また「がん」ができていたらどうしようとか、死への恐怖がとても強くなっています。いろいろ考えて悩んでもしょうがない。精一杯生きようとするようにしています。そして、1週間に3回のミノファゲンの注射と薬を飲み、体力の回復に努めています。
57	完治のため、2度目のインターフェロン治療中です。期間が1年～1年半と長く、体調に波があり、しんどい時はくじけそうになります。ペグの注射を打つと具合が悪くなり、高い治療費を払って、何をしているんだろうと思う時があります。予約でも、病院はととても混んでいるし、毎週行くだけで疲れる。周囲の理解と協力がないと、治療を受ける事は難しいです。
58	なるようになる。
59	現在、3度目のインターフェロン治療(72週)の60週目で、ウィルスは16週目よりずっとマイナスのため、この治療でのウィルス排除に望みをかけています。主治医からも、今回は著効できると励ましてもらっているため、精神的には安定していますが、もし失敗であれば、かなり落ち込むと思われるので、心境の変化は治療結果に左右されることを、付け加えたいと思います。
60	和解後より、国、企業に対する腹立たしさが強くなってきた。これから先の体調を考えると不安になる。何としても、治療費の無料化と健康手当のような支給の2点を、是非考えてほしい。
61	老いた親に対する、子としての責任を優先したい。一番必要な時期に、子供の父親との離別、我が身から下ろしたくない荷物なのですが、そんな事情を置いて、インターフェロン治療に入る事を強要されるかのような助成費のあり方には不満です。今の現状は、各自の努力や体力により異なるが、国の不備により、皆一様に感染させられたのですから、一様に被害者としての手帳を下さい。医療が何であろうと、肝炎のためのものならば、費用が無料になる配慮を、国で弁済していただきたいです。過ぎた苦しみの日はありませんが、せめて、自身が受けた方法を、無料で選択させてもらいたい。
62	肝炎対策基本法が成立した。すべての方々に感謝したい。安心して治療に入れる日が、早く来ることを願います。
63	<ul style="list-style-type: none"> ・インターフェロンが効果のない人には、新薬の開発に力を入れてほしい ・肝癌で苦しんでいる人の救済に、力を入れてほしい ・障害手帳を交付してほしい ・治療費の無料化を是非おねがいします
64	病気の方は現在落ち着いているが、少しずつ進行しているようで、将来への不安が大きい。
65	弁護士の方をはじめ、多くの方が体の事を心配して下さったり、「一刻も早い治療を」と言っておられるし、自分でも分かっているのですが、目の前の家族(夫)が病気だと、自分の事は後回しになり、毎日しんどい中で、働くことさえまもなくなくなると、このまま死んでしまうのか、後に残った夫はどうなるのだろうか、肝ガンで亡くなった父の最後の姿が浮かび、不安で押し潰されそうになります。
66	インターフェロン治療中で、5ヶ月目に入ってから、抜け毛、皮膚の痒さなどの副作用が出てきて、かなり辛い日々があります。ウィルスは未検出(4ヶ月目)になったので、頑張らなければと思います。あと6ヶ月インターフェロンを受けるのは、かなりの気力と体力が必要です。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ちーその他
67	近頃は、肝炎とも長い付き合いになったし、年もとったので、これも運命だったのかなと、少しは思えるようになった。肝炎の完治は無理でも、これから先はうまく共生して生きて行こうと思う。「そのうち、すごい薬が発明されるかもしれないな～」なんて、ちょっと気持ち的にも、穏やかになったりしている。
68	私の場合、治りにくい種類のC型だそうで、過去2回程治療をしましたが、マイナスになってもすぐにまたプラスになります。おまけに太っているので、ますます治りにくいらしいです。このまま同じ状態なのかなと思ったら、辛い時もあります。
69	インターフェロン治療をしてウィルスは消え、今もその状態は続いているが、疲れやすく、無理ができない。仕事も最低限の量(時間)でしている。本当は、働かずにいるのが良いのだろうけれど、収入と働くこと(社会生活への参加)は、私には必要だと思う。夫も定年間近で、老後の不安も増してきて、笑って日々を過ごせていないのが現状です。
70	目の病気を持っています。一度インターフェロン治療を受けましたが、眼圧が上がり、怖くなって24週で諦めました。今は強ミノを週2~3回、ウルソ、グリチロンを服用しています。これから先も続けていくつもりですが、いろんな面で不安がないと言えばウソになります。
71	今は、あとどれくらい命なのか、分かった時点で早く知りたい。そして、残された時を悔いのない日で終わりたいです。医学の進歩で、肝硬変など治せる薬が見つければいいのですが・・・。私にはインターフェロンもダメだし、いつ再発するか。それまでに良い治療が見つければ・・・。でも、あまり長生きすると、今後の治療費が払えなくなり、子供達に負担がかかるならば、早く死を待つ方がいいです。
72	インターフェロン以外に完治の方法はないのでしょうか。どの段階でインターフェロンを使用したらいいのか、副作用は？又、日常の食生活などで注意することなど、気軽に相談できる医療体制を確立してほしい。
73	C型肝炎から突然肝臓ガンと知らされ、とうとう来るべき時が来たのだと腹をくくりましたが、本心は、今後病気との闘いを思うと、全身の血が引く思いでした。私はまだインターフェロンを投与していません。副作用が怖いのです。沢山の副作用を考えると、治るより、自分の人生がここでまた狂わされてしまうのではないかと、すごく不安です。年齢から言うと、インターフェロンは30%の可能性があるとされています。もう一度話を聞き、来年度にインターフェロン投与と覚悟を決めました。
74	インターフェロン治療により、1年に一度の健診で良くなっている今の状態を感謝している現在において、不安がないわけではないが、知った時々の状況では、感じ方もだいぶ変化しているように思う。
75	治療病院も変わり、脾臓を摘出し、血小板を13万まで上げ、インターフェロンに入り16週目です。完全治療に向かって頑張っています。まだまだ分かりませんが、笑顔で楽しい生活ができることを祈っています。
76	12/7より入院し、インターフェロン治療を初めて行うことになりました。効くか効かないかより、今の状態で、落ち着いて仕事や家事ができる体に戻れるか不安。今より悪くならないことを望んでいます。
77	元の体を返してほしいと思っても、仕方がないこと。人生を狂わされたとも思ってみても、仕方がない。どの質問にもそう思います。11月に考えた時と、今日12月14日に考えた気持ちもそうですが、くよくよしていても仕方がないので、明るく前向きに生きようと思います。時にはしんどくて、起きあがるのが辛い時もありますが、誰も皆少しは苦しい事があるので？と思い、自分のできる事は(親の介護を含め)、やっつけようと思っています。伯父が亡くなり、伯母の事をみていたので、遅くなりました。
78	常に希望を持ち、あきらめずに治療に取り組んできたことが、完治につながったと思います。入院中に、昭和から平成に変わったので、闘病生活は20年に及んだのかと、今さらながら、よく頑張ったと思わずにいられません。ただ、主治医に「これ以降は大丈夫。でも、この時点までにスイッチが入ってしまったかもしれないので、経過観察はかかさずに」と言われ、完治したからと有頂天にならずに、油断することなく、経過観察を怠らないようにしようと、心に言い聞かせました。あと、主人に感染していないかと、主人が体調不良を訴えるたび、心配になります。
79	週2回のインターフェロン、強ミノの点滴は大変です。点滴後、ひどい寒気、微熱。やっとの思いで家路につきます。もちろん、家事一切できる状態ではありません。当日は、何もかも済ませて病院に出かけます。帰宅したらすぐに床に入ります。体の苦痛ばかりか、医療費も1回1万5千円。それに交通費と、何もかも大変です。
80	最初から闘ってこられた原告団の皆さまには、心から感謝しております。
81	医師から治療は移植しかないと言われてから、「まさか、こんなに早くそこまで」という思いと不安、迷いで毎日悩ましい日々です。
82	新しい生命保険に入れない。
83	幸いにして、インターフェロン治療でウィルスが消えたので、現在は肝臓に関しては心配していない。
84	出産の翌日に肝炎の疑いがあるとされ、治療をし続けてもいっこうに良くなりならず、この子が3才になるまで、5才になるまで生きていられるのだろうか、毎日不安でした。自分の体調が悪いのは、もちろん辛いことでしたが、こんな体で主人や娘に苦勞をかけていることを思うと、胸が張り裂けそうな思いで、自分が押し潰されそうでした。金銭的な心配をせず、治療に専念できるよう、そして、心のケアもできるような体制が、整ってくださることを祈ります。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ち—その他
85	家族（子供）の協力が無い。姉 2 人とその子供達で妹（本人）をみているので、子供達に対し、腹立たしく思う。
86	いずれにしても、国民病という汚名返上。二度と薬害が起こることのないよう、願うのみです。
87	現在、2 度目のインターフェロン+レボトール治療中で、今のところウィルスは検出されずです。残す 6 ヶ月の治療を絶対に頑張って、もとの健康な体になりたいです。副作用が辛いですが、負けません。
88	元気なうちにしたいことをし、見たいものを見て、生きていこうと思う。先が見えない感じがする。将来がないように思う。
89	2009 年 10 月 1 日から 2 回目（1 回目は H7 年）のインターフェロン治療を開始したところであるが、経過観察の検査で、私のウィルスはインターフェロンに抵抗性が強いかも知れないと主治医から聞かされた。一応 1 年半継続治療するつもりでいた方がいいとのことで、治癒の可能性は、約 70%とも言われている。治癒の可能性にかけて、今後も治療を続ける気持ちでいるものの、様々な副作用が見られる中で、治療期間最後までがんばれるかどうかという不安と、治癒しなかった時の失望を想像すると、複雑な気持ちで毎日を過ごしている。
90	将来、肝癌や肝硬変になるのではないかと不安に思っていますが、一応治療も終わり、ウィルスがなくなり、少し安堵しています。
91	週 1 回の休みは、通院のため、上司に都合をつけてもらい取っています。休日といっても、治療のためだけの休みで、自分の時間はなく、精神的ストレスが溜まります。仕事をせずにはおれず、元々弱いところを人に見せるのは嫌いな人間なので、無理にでも元気なふりをしていることに、疲れてしまうことがあります。肝炎だと保険に加入することも難しく、肝炎以外の病気にかかった時など、年齢的なことを思うと将来不安です。
92	病気の進行が病気になります。
93	現在は、身体がだるいのか、そうではない理由でしんどいのか、どちらとも分からないので、もう気にしない。下半身マヒなので、現在両杖で歩行。
94	いつ肝硬変に進んでしまうのか、毎日気になります。恐ろしいです。
95	これからの病気の進行状態が心配です。C 型肝炎が、風邪のように治る病気でも怖いの、死ぬかも知れない恐ろしい病気をうつされたらと、思われているんじゃないかと思ってしまいます。病気が分かった時、主人にうつるんじゃないか心配だと言うと、主人は笑って、「うつるんやったら、もうとっくにうつってるやろ」と言ってくれました。知らずに過ごしてきた時期がありましたが、家族の誰にもうつってなくて幸いでした。C 型肝炎について、国民の方々には、簡単にはうつらない病気だと知ってほしいです。私が言って廻ることはできないので、テレビなどで、広告のように説明を流してほしいです。
96	2~3 年前より体調がすぐれなかったけれど、最近は旅行などに行き、いい気を取り入れようと努力しています。今のところウィルスは落ち着いています。またいつ出るか不安ですが、頑張っています。病院の先生は大丈夫とおっしゃいますが、こればかりは分からないと思います。
97	死は恐ろしい。自分から死を選ぶことはしたくない。病気になったからには、病気とうまく付き合って前向きに努力するしかないと考え、諸々の病と闘っていく所存でございます。
98	不況により、自営業が大変なのですが（経済的）、十分に仕事ができないのと、体が十分ではないので、転職もできません。すぐ疲れます。心臓も弱ってきていますし、死んでしまいたいのですが、母が 94 才で存命中なので、子供として死ねません。体が弱いことが、本当に苦痛です。自分は労働するのが好きな人間なのです。
99	H20 年 10 月~H21 年 3 月までインターフェロンの治療を受けて、現在ウィルスは検出されない状態が続いていて、少し体力が戻ってきました。ただ、血小板は 8 万台で、10 万を突破できないでいるのが、唯一気になることです。
100	治療のため、病院以外家で過ごすことが多いので、一時電話に出るのがイヤ、人に会うのがイヤ、もちろん外出もできなかったりで、友達からも遠ざかり、自分に自信がなくなってきたと思う。
101	・数値が悪くなっていないか気になります ・インターフェロン（リバビリン）をもう一度受ける時期が、近づいているように感じます ・仕事の責任があるので、後継者として子供に仕事を継いでもらうことにした
102	家庭内の生活の中で感染を考えると、大変気を使う。何かの拍子にに出血した時、キズ絆は何時もポケットに持って歩く。22 年間 1 回も旅行に行くことができなかった。体力がなくていかれない。
103	私は感染がすぐ分かり、早期治療によって治したけれど、感染した時に抱いていた死の恐怖等の感情を、現在も持っている人達。私は体調不良はなかったけれど、普通に健康な生活を送れない人達がいるのは、けっこう辛いことです。
104	くよくよしないように心掛けている。
105	実母の病状が、最後の看とり段階になってきたが、自分の病状が悪化した場合の不安。1 人親で 1 人娘である私は、最後までお世話して見送りたいと切に思う。私自身は、周りの家族やヘルパーさん、その他に助けられながら、楽しい時間を少しでも作るようにしているが、楽しむ時間の限りが少なくなった。このごろは、疲れや不安が重く悲しい。つらい検査や治療が怖い。死ぬことについては怖くない。少しでも子供の成長を見たい。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ち—その他
106	どれくらい病状がでたら、治療に入ればいいのか分からない。副作用等の事を聞くと、このままでいた方がいいのかと思う。
107	自分の体よりも、娘の事ばかりで頭がいっぱいです。まだ悔しい思いでいっぱいです。許せない思いでいっぱいです。
108	インターフェロン治療を受けることについて不安があるので、相談にのってくれるカウンセラーみたいな人がほしい。色々と不安な事や疑問を解消したい。
109	インターフェロン治療を受けて、副作用に苦しんで、どうしてこんな辛い治療なのか。毎週熱がでて、食事がとれず細くなり、他人が見ると病人と分かり、電車の中でも避けられるように感じた。どのようにしたら副作用が軽くなるのか。運動を取り入れたり、食べ物を無理して食べるようにしたが、それで1年間続けたが、体力ギリギリまでしないとだめだと思った。ウィルスはとても強い。無理して元気なふりをしてきたが、体力的にも精神的にも本当に限界だった。
110	私もこの数年の間に、インターフェロン治療になると思うけれど、現在仕事をしており、副作用が心配で、なかなか受ける決心がつかない状態である。
111	とにかく体がだるい。食欲がない。病気とうまく付き合っていこうと、明るく笑顔でいようと思って生活しているけれど、いろんな事を考えると不安でたまらなく、気持ちが落ち込んでしまう。その繰り返し。インターフェロンの治療を来年の夏から始めようと思う。けれど、副作用が体にどんな影響があるのか考えると辛い。ウィルスを排除するのが効かないタイプだ。体力的な不安もさることながら、精神的な苦痛の方が大きい。インターフェロンの治療を受けて、ウィルスが排除されたら完治すると言われているが、治療を受けてみないと、治るか治らないか分からない。自分の体を痛めないといけないう治療を受ける。何も知らない人に、治療を受けない人に、そんなに簡単に「治療を受けて完治する」なんて言ってほしくない。副作用が少ない治療法ができてほしいと、強く願う。
112	精神と肉体と調和させて、生活していきたい。運動も徐々にできるようになりたいし、やっといこうと思っている。食事療法はますます進化させていきたい。生き方を自分が選択していこうと思っています。
113	急性肝炎で入院してから、ついこのままで慢性肝炎だと思って、定期的に血液検査をしていたのですが、この問題がテレビで大きく取り扱うようになって、主治医から、もっと詳しい検査をしたらと言われ、その結果が自然治癒で、いつの間にか治っていた事にとっても驚き、同時に喜びとホッとした気持ちがあり、とても信じられませんでした。他の人には本当に申し訳ないのですが、今は死の恐怖から解き放された気持ちで、第2の人生だと思って、大事に生きていこうと思っています。
114	この質問は、完治している人には無意味です。人それぞれいろいろな人生を歩んでいきます。私も原告団ですが、過去を振り返っていません。
115	現在、ウィルスの検査では一で、肝機能の検査でも正常値なので、普通に生活しています。
116	弁護団の先生方、原告団、支援者に感謝しています。でも、まだ和解になっていない原告もおりますので、1日も早く和解ができるようにして下さい。法案は皆の努力でできましたが、どんな内容かは、まだこれからだと思いますので、原告団の1人として、今後もしできる事に参加させて下さい。私は、自身の足元を、また作り直します。正直な気持ち、つらいです。
117	薬害肝炎と知ってから、精密検査を受けたら、肝硬変に進行していることが分かり、ショックで涙が止まらなかった。運良く大学病院で治験を受けることになり、現在も治療中である。何もしないでただガンを待つよりも、何かにすがって、少しでも生命を長らえたいという気持ちでいっぱいです。検査結果にドキドキしながら、本当にウィルスがなくなるのか、不安の中での生活です。通院のたびに主人は仕事を休み、家族に迷惑をかけていることが負担になる。これからの生活も不安がいっぱいだが、いろんな人に支えられていることに感謝しながら、前向きにいくことでしか、希望が持てないのがつらい。早くこの病気が治る治療が見つかることを、常に願っている。
118	最近、ガンらしき影が発見のため不安です。今度の診察で説明がある。
119	現在はウィルスは一なので、肝臓のことでクヨクヨすることはありません。うつ症状に伴う身体的疲労がしんどいです(服薬も含めて)。
120	今でこそ落ち着いて人生を考えられる。月日が流れたせい？私のような人が、こんなにも多くいらした現実を目の当たりにして、他の人もがんばっているのだから、私もがんばれるところまで。この目で見られる、この手の届く大切な人のために、笑顔でやさしくがんばろうと思います。
121	ペグイントロンとレボトール併用療法を受け、55週目。治療がこれほど辛いとは思っていなかった。白血球、血色素ともに減少。6ヶ月頃から甲状腺の機能低下と更進を繰り返している。もし再発したとしても、もう治療はしたくない。治療する前の方が、体は悪くても今よりは動けた。
122	副作用が心配だが、治療をして、これから残された時間を前向きに生きていきたいと思う。
123	現在は、完治と言われているが、果たして本当なのか・・・と思う。将来、私が年をとり弱っていくと、又、肝臓が悪くなるんじゃないかと思っている。この病気が本当に完治していたかは、私が死ぬ時にはじめて分かるのではと思っている。

No.	問 3-10-2 最近数週間の気持ちーその他
124	インターフェロンは7月で1年間の治療が終了しました。先日、6ヶ月目の検査で検出せずの結果が出て、ほっとしています。まだ3ヶ月に3本検査に行くのは、やはりイヤですね。毎月の検査、毎週の病院通いから解放されたのは救いですね。
125	こんなに苦しい病があるということを知りました。まるで、ボディブローみたいに後で効いてきます。
126	インターフェロン治療は終わったけれど(1年)、味覚障害で味が分からなくなるとは思わなかったので、治療前においしいものをお腹いっぱい食べておけば良かった。味が戻るのには、たぶん来年2月から3月頃までかかるだろうと言われている。夏もずっと1年中皮膚の乾燥、あかざれ、ひび割れ、薬、クリーム、リパテープが手放せない。筋肉のこわばりもあるけれど(リウマチ)、食べ物がおいしくない方が辛い。
127	複数の持病があるためいろいろな制約を受け入れ、生きてきましたが、C型肝炎という病気がまたひとつ増え、心身共に疲弊した感があります。これから先、何年自分で動くことができるか、生きることができるか。体調の悪い時は、いろいろと考えるようになりましたが、病状が悪化しないよう、家族のため、自分のため、自己管理をこれからもやっつけていこう、やらなければとも思います。
128	来年、インターフェロン治療を受けるために、今は検査など受けているところです。3度目のチャレンジです。今回は近くのかかりつけ医と肝臓専門医に治療をお願いしました。やはり、専門医に診てもらえるのは、心強いし安心です。なんだか治りそうな気がしています。頑張ります。
129	完治しているので、前向きに過ごしている。
130	良い結果が続いていることはとても嬉しく、病院への通院がとても大変で、仕事もハードなので、周りに迷惑をかけることも多々ありました。
131	自分自身しっかり受け入れて、前向きに治療に専念しています。私自身「のさり」だと思い、いろいろな経験(本当はしなくてすんだことですが・・・)が今後何かにプラスになればと思っています。
132	2度目のインターフェロン治療途中より、うつ状態になり、身体的には腰を曲げ、手は握り拳状態で歩行もかなり困難。会話もしなくなっています。泣いてばかりだったのが、最近少しは笑顔も出始めたものの、身体症状は相変わらずなので、本人はつらい精神状態が続いているようです。
133	肝炎が完治してホッとして、2年目に乳ガンになりましたが(58才でC型肝炎、60才で乳ガン)、現在は再発もなく(8年間)、明るく前向きに行きたいと思います。
134	小学校5年生で告知を受け、高校1年の時にインターフェロンを受けました。おかげで今は健康を取り戻し、病気だったことを忘れるときもあります。このアンケートを見ると、今も苦しんでいる方達に、早く健康になってほしいと願うだけです。
135	現在、ペグインターフェロン治療中。8週で一になり経過観察中。再燃を怯えているが、医者レベルの医療従事者用の情報開示がしっかりとないと、患者は不安が多い。何で一の者が何%あり、その場合はどういう治療を行うのか。最悪の場合は何%で、こういう治療を行うなど、医学書を事前に購入(40,000円分)し、副作用をあらかじめ学んでいたため、あらゆる副作用について、即対応可能となった。これは非常に大きいものである。患者自身が必死に病気の勉強をしっかりして、専門医と同じレベルまでもっていかなければならないと、今日の病気を通して感じている。
136	私の場合、感染してもう30年程になるけれど、幸い症状が軽く、やもすれば病気であることすら忘れる程でした。つらくて大変な思いをしている方も知っています。自分は幸せな方だと思います。
137	インターフェロンの治療が効かず、今はただ新しい治療法を待つ毎日で、いつ悪くなるかととても不安。子供達の事が一番心配。
138	生きていく事が不安と思うのは、とても葛藤であり、憤りである。
139	薬害肝炎救済法、肝炎対策基本法等で、法の整備がある程度整ったことにより、将来の不安が多少解消され、安心感が出てきました。
140	私は病気への心配が募り、うつ病になってしまいました(一年前に診断されました)。家族にも迷惑をかけ、毎日毎日、体が動かないことを悔しいと思い、生活をしています。こんなにきついなら、死んだ方がいいとも考えられることもあります。

問 6-1 肝炎患者の今後の医療や生活を保障する恒久対策として望んでいること

No.	問 6-1 肝炎患者の今後の医療や生活を保障する恒久対策として望んでいること
1	配偶者の所得で負担金を決めないでほしい
2	早急に副作用の少ない治療薬を作してほしい
3	その当時、この薬害、薬害エイズに関わった役人、法人全てに重い法的処罰を下してほしい。また、後に天下りをした役人は全て、財産を没収してほしい。このぐらいのことをしてもらわないと怒りは治まらず、心のケアにならない
4	患者の権利を認めてほしい
5	治療後の仕事先を見つけてくれるまで保障してほしい
6	肝炎にかかっている気付いていない人を一人残らず探し出すこと
7	薬の利と害についての説明を明確にしてほしい
8	IFN 助成を一度だけでなく、何回でも助成してほしいです
9	同じ病院で同じ治療をしている人同士の意見交換などができたら力強い
10	マッサージ治療を保険適用してほしい
11	肝炎についてもっと広く広報し、検査の推進をしてほしい
12	ペガシス、コペガス治療 72 週です。完治するまで助成してほしい
13	肝臓病友の会などの患者同士の交流、最新の医療情報の提供など
14	インターフェロン治療で完治できればいいが、できなかった人への保障を考えてほしい。治療費もかさむし、将来への不安等
15	特別養護老人ホームやその他の施設等、入居時にウイルス検査があり、保有者は入居を断られます。パンフレット等には全く記載がないのです。せめて毎月の検査費用だけでも負担をなくしてほしい
16	治療中の生活の保障をしてほしい。介護支援なども含めて
17	治療法が確立して、完治する病気になってほしい
18	副作用がなくて、100%治る新薬を早急に開発してほしい
19	病状悪化に対する保障期間が決まっているので、それ以後に悪化したら心配です
20	国はもう少し国民の目線で、国民の痛みを感じたスピードある行政をやっていただきたい
21	インターフェロンが効かないので、早くそれに代わる薬を開発してほしい
22	肝炎治療薬の開発に努めてほしい
23	薬害の患者達には治療費免除と障害年金は当然だと思う。病気にしたのだから、被害の完全回復と、その間の生活保障をするべきだと思う
24	病気のために退職したので、復帰できる制度を作してほしい
25	検診を全ての患者に義務化し、医療費を全額は無理でも負担してほしい
26	治療に専念するために大好きな看護師の職を辞めました。仕事を続けながらの治療はかなりきついと思います。これからの人のためにも生活、仕事の確保の援助も是非お願いしたいです。精神的、肉体的、そして経済的援助を強く望みます
27	肝炎の検査料を軽減してほしい（定期検診料等）
28	治療時の生活保障をしてほしい

問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
1	C 型肝炎に感染することを知っていたのならば、許せない。
2	国から許可が出ていれば、使用しても仕方がなかったと思う。
3	当時使用した医師は、責められないが、その原因が明らかになった今、素直に使用を認め、協力する医師であってほしい。ごまかしたり、協力できない医師は許せない。
4	医師は国、会社に比べて、責任は相当軽い。
5	当時、最善の処置をしてもらい、命を助けてもらったと思っている。肝炎感染止血効果なしの認識や、製薬会社との関係が分からないので・・・。
6	医者から輸血でと言われ、薬害訴訟の事は私には関係ないと思っていました。平成 20 年に突然病院からの通知で、フィブリノゲンを使ったと知りびっくりしました。
7	生存するための手術の際の事故なので、特別な感情はありません。
8	あの当時、山梨では使用することが当たり前だったので、仕方がないと思っています（私のタイプの白血病のみ）。病気を治そうとしてしたことで、肝炎になることは皮肉な結果ですが、病気は治ったので感謝しています。
9	その当時の最適な治療をしてくれたので、個人的には意見はない。むしろ、命を救ってくれて感謝している。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
10	ミドリ十字は、色々な薬害を起こしている会社なのに、どうしてこの会社と取引をしていたのか、聞いたかったことです。
11	命を救うために、ベストを尽くしてくれたと思う。当時は、医師もフィブリノゲンが有効だと信じて使用したはず。医師に対して、全く恨みはない。
12	当時はやむを得ないと感じた。
13	国で許可したので仕方がない。
14	使用した止血剤が悪い事を、知らなかったのですか？知っていた人が、近くにいたのではないですか？などの気持ちになるほど、心がひねくれました。
15	殺したいほどの憎しみがある。当時、体調の不具合や治験の診査を無視した医者に対して、せめて家に直に謝罪をしてほしい。
16	医師は、フィブリノゲン製剤を投与したら、どのような結果になるのか、知っていたのではないかと思っています。
17	認識があったかどうかは分からないが、止血剤として使わなければ、死亡すると考えたら、やむを得なかったと思う。
18	フィブリノゲン製剤に対しての勉強を、もう少ししてほしかった。
19	緊急時の使用でやむを得なかったと思う。
20	その時、フィブリノゲンを使用しなければ、私の命が助からなかったのであれば、仕方がなった事であったし、感謝するべきですが、ちゃんとした説明がほしかったです。
21	弛緩出血だったので、止血剤を使用したのは仕方がないと思ったが、なぜ血液製剤を選択したのかと思う。もう少し、様子を見てから使っても良かったのと思ってしまう。
22	当時は、普通のことだったのだと思う。その後、肝炎の治療を親身になって下さったので、感謝している。
23	薬の使用、感染の事、今後の事について、自らきちんと話してほしかった。厚労省の批判だけではなく、自ら医師としての責任を、もっと自覚してほしい。
24	医療に従事されている方々に、こんな惨事は、もう二度と絶対に起きてはならない事です。これから先、長い年月の間に、また同じ事が繰り返されたとしたら、使用するのは最終現場である医療機関です。新薬ができれば、まず、我が身我が子に置き換えてみて下さい。はっきりとした、しっかりと安全、安心ということを、人の大切な命を預かっているということをお願ひします。
25	「止血のために、当時は良かれと思って使用した」ということでした。それで命拾いをしたことは事実ですが、その出血の原因は何だったのかと今でも思います。
26	止血剤として国が認可している薬だから、医者は信用して使っていたと思う。別に、医者は悪いとは思わない。
27	1982年に出産により、非加熱製剤のフィブリノゲン 2g 使用。なぜ必要だったのか、憤りを感じた。1977年に、アメリカでは中止されている。多くの人の人生を狂わせてしまった責任は、どうとるのか。
28	その時の最善を尽くしてくれたと思えたので、感謝している。
29	手元にカルテ式保管されていた事実を踏まえて、各種報道機関で公表されていたものですから、患者側への使用報告がほしかった。当方の追求調査で判明した。医師への信頼感を失う結果となった。
30	もっと処置に責任を持つ。
31	フィブリノゲンの使用については、一度も説明がなかった。止血のためにやむを得ず使用したとしても、内容を正しく説明してほしかったです。
32	「心臓は助かったのだから・・・」と、先生はおっしゃるけれど、じゃあ肝臓はどうなってもよかったですか？今も手術前に受けた「心疾患説明図〇〇大学医学部第一外科」が手元にあります。フィブリノゲン製剤の事については、一切触れていません。書かれている事は次の事だけです。 ①心室性頻拍→突然死、生活制限 ②カテーテル テイピング 右心室 三尖弁～流出路 ③発作手術中に起こる、心表面直接部位が決定 ④人工心肺 心内幕？ ⑤冷凍手術 心筋切除 ⑥三尖弁の手術の可能性 ペースメーカー
33	フィブリノゲン製剤を使用したにもかかわらず、使用していないと言われてしまった。20年も前の事で、忘れてしまったのかもしれないが、目の前が真っ暗になってしまった。幸い、別の病院に入院した時のカルテがあったので、給付金を受けることができた。使用した事を、隠さずに言ってほしい。
34	私の場合、医療ミスで因子製剤が使われたので、医者を訴えたい気持ち。
35	医師自身も薬の勉強をしてほしい。
36	出産時、命を救うためには仕方がなかったと思うが、悔しいです。
37	投与時、医師は危険製剤であることを知らされず、使用したと考えられ、責任は問えないと思われる。しかし、その数ヶ月後、数年後に、フィブリノゲンが肝炎の原因と判明し、それを認識した時点から、投与した患者に対し追跡し、事後対処してほしかった。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
38	当時はノンAノンBと言われていた時代で、使用は他に手段がなかったので、仕方がないと思う。
39	医師に対しては、命を救っていただいたことを、非常に感謝しております。でも、薬害になることが分かっていたら、他の方法で助けてもらいたかった。
40	仕方がないとは思いますが、使用するにあたって、説明がほしかったです。
41	418 名リストの中に私の名があり、肝炎になった原因が分かりました。院長には、早く知らせてほしかったです。残念です。悲しいです。
42	昭和 57 年当時に、止血剤としては、仕方がなかったものと考えます。
43	あの時は急で、そうせざるを得なかったかもしれないが、医師は、この製剤の危険性を知っていたのか知りたい。
44	説明は聞きましたが、その状況が良かったかどうかは疑問です。
45	体に危険が及ぶことが分かっている、使用したとしたら、許しがたいことだと思う。
46	使用当時は、多く使用されていたとはいえ、他の薬剤があったことは間違いないので、もう少し慎重であってほしかった。
47	当時、他に止血剤はあったのでしょうか。医師の対応がどれほど誠実だったか、夫は語りぐさにしていました。
48	医師は、懸命に私の命を救ってくれた。あの状況で助けられ、感謝している。助産師は、日常的にフィブリノゲンが使用されていたと話してくれた。
49	投与前に、家族の者には「肝炎になるかもしれない」と医師から言われた。しかし、生きるか死ぬかの時に何の選択肢もない。医師は、輸血のリスクを言ったのか、フィブリノゲンのリスクを知っていたのか、どちらか聞いてみたいと思う。今後、医師は薬に対する勉強も必要かと思う。
50	命を救ってくれた方です。感謝の気持ちしかありません。
51	製剤が認可されていたので使用したのであり、特に意見はありません。
52	出産時、出血が止まらない中で、医者はまず、止血することを第一に考えていたと思うので、その時、医者がフィブリノゲンは肝炎の原因になるかもしれないと知っていても、使われたと思いますし、私を助けるためだったので、医者には全く恨みを持っていません。
53	医師に対しては、責任はないと思う。その時点では、この方法しかなかったことであろうから、投与以前の問題だと思います。
54	医師は、緊急時に良く効く薬剤を使い、人命を救助したいと考えるのは、当然のことだと思います。私の場合は、出血多量で運ばれ、そこで意識低下した状態で使ったので、それは仕方がないことで、私を助けてくれたのだと思います。それよりも、出産時に、自分の時間の都合で、説明もなく、陣痛促進剤を筋肉注射した医師が許せません。
55	人の命を守る立場にある医師が、国、製薬会社とグルになって隠ぺいし、私自身 10 数年間も放置されたことに、怒りを感じる。しかも、手術後の診察を、今後も引き続き同じ医師に依存しなければならず、患者の弱さを痛感している。
56	フィブリノゲンを投与されてしまったことは悔しいし、悲しいけれど、その当時、死と直面していた私を助けて下さった先生に、恨みはありません。
57	国が認可した製剤で、医者に責任は問えない。
58	手術時の多量出血のための使用で、医師に対しては特に何も感じていない。
59	私の出血量を考えると、1992 年の 1 月、フィブリノゲンの怖さを承知していたとされるドクターは、無理に輸血行為をしないでほしかった。意識はしっかりしていたので、副作用を教えてほしかった。
60	5、6 年前、初めて C 型肝炎を知り、フィブリノゲンが原因だったなんて、分かるはずもなく、意識も朦朧としていたのですが、その時の医師は、フィブリノゲンを使っはいけないことを、知っていたのでしょうか。今となっては遅いのです。
61	もっと安全性を確かめてから、使用してほしかった。危険な製剤であることが分かった時点で、すぐに使用をやめてほしかった。
62	お産の時、止血剤として投与されたが、何の根拠があったのか。
63	医師には責任はないと思う。
64	結果的に、初期であるのに手術に失敗し、退院前日に大出血して、フィブリノゲンを使われ再手術。お腹はひどい傷。血液は汚れ、絶対に人には知られないようにと神経を使い、病院にも行かなくなり、健康食品を何種類か使っている。顔で笑って心で泣いているような生活でした。手術した病院に電話して、フィブリノゲンを使った事を聞き、「辛い思いをさせました」との医師の言葉を聞き、涙が出ました。私を担当した医師ではないのですが、その時は身体の力が抜けました。
65	大出血で運ばれたため、死の危険があり、当直の医師は助けようと必死なのが分かっていたため、止血の効果があると思われる製剤を「使用しますよ」と言われ、任せるしかなかった。仕方がないと思う。
66	医師個人ではなく、病院に対して責任を問いたい。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
67	手術前の説明で、使用する可能性を聞かせてもらったが、医師としては、ベストの選択だったのだろう。少し悔やまれるが・・・。
68	その時の最善の治療を考えて下さったわけなので。その後、肝炎感染について、書類を提出して下さったおかげで、製薬会社から主治医に、そしてすぐ連絡を下さり、早い時点で裁判も終わり、重荷を背負わなくて済み、感謝しています。
69	医師は知らなかったもので、しょうがないと思っている。
70	知らせてくれて、カルテも残しておいてくれて、今は感謝している。
71	仕方がない。
72	医師は、危険性を認識して使用するべきであり、肝炎になった時、もっと適切な処置をとるべきだったと思う。
73	当時は認可されていたものだったので、使用については、仕方がなかったと思う面もある。当時、私は出血多量でショック状態だったため、生死をさまよひ、死産してしまった。
74	命を最優先に行ったこととっております。
75	私は34年も前の事ですので、命を救ってくれた医師に対しては、感謝しております。
76	他の方法はなかったのですか？
77	命を助けていただいたので、感謝はしているが、その後から現在まで苦しんだ。その時、死んでいた方が良かったと思います。生き方を教えてほしい。
78	命を助けてくれた医師に対しては、感謝の気持ちの方が強いです。しかし、フィブリノゲンが効果のない薬、危険な薬であるということを知っていたのか？聞いてみたいです。
79	仕事上、仕方がなかったのでは。
80	本当に必要な治療だと思って点滴したのか、聞いてみたい。
81	大量出血で、命を落とす危険があったので、やむを得なかったと思う。
82	フィブリノゲン製剤の危険性を、どれくらい認識していたかの問題はあるものの、現場の医者として、少しは感じるものがあつたと思う（多少なりとも問題があると）。フィブリノゲン製剤を使用せず、治療する方法を考えてほしかったし、医者の姿勢が問われる。
83	「最近、肝炎になる人が多いのよ」と言っていたということは、医師も何らかの疑問を持っていたのではないかと思います。又、その後、危険だということで、使用中止になったのに、何も連絡がなかったことには、少し無責任さを感じています。新鮮血を使用したことについては説明もあり、母子手帳、保険金請求のために記入してもらった診断書にも記載がありましたが、血液製剤を使用した事は、手術中で意識がない間に使われたこともあり、説明もなく、母子手帳等にも何も記載がありませんでした。ただ、カルテの手術記録に残っていたのが幸いです。命を救うための手術をしていただいた事には、本当に感謝しています。
84	許すことができない。
85	産科の先生は、早くに、フィブリノゲンを打っているので、検査を受けるよう進言してくれました。体調は良かったのですが、「悪かったね～、悪かったね～」と、何回も言われました。誠意のある医師だと思います。
86	私が使用された当時は、医師も肝炎を起こすという認識がなかったので、医師を責めるつもりはありません。私の医師は知らなかったけれど、アフターケアをして下さいましたし、訴訟に関しても協力して下さいました。使用したから、私の命が助かったのだと、今でも思っています。
87	26年前の事なので、医師もフィブリノゲン製剤について、どの程度理解していたのか？説明がなくても仕方がなかったと思う。
88	医師の都合で計画出産させられたことが、全ての根源だったと思うことがあります。「陣痛がないのに、入院して出産」は不自然です。その提案を拒否できなかったことが、今でも悔やまれます。医師の対応に、不満、許せない思いを痛感しています。
89	当時は、出血の際、効果のある薬と信じて使用していたようなので、仕方がなかった事と思いたいです。
90	感染はしてしまったが、フィブリノゲンを使用しなかったら、命はなかったかもしれないので、複雑な気持ちです。
91	出産からずっと入院（3ヶ月半）している間に、急に先生が退職してしまったことの原因、及び説明がされないまま、今に至っていることが、とても不安です。
92	私の場合、緊急事態だったため、フィブリノゲンの投薬に関する説明をする機会がなかったのではと、個人的に推察していますが、事前説明があつてしかるべきだと思う。
93	止血目的で使用されたことは理解できる。しかし、肝炎が発症する恐れがあることを、きちんと伝えるべきであった。
94	説明もなく投与され、一生を不安に過ごさざるを得なかったことに、悔しい思いをしている。半面、命が助かったので、仕方がないかとも思う。
95	心臓機能障害（弁置換）手術をした当時は、その薬、その方法しかなかったのかも知れないので、医師を恨むつもりはありません。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
96	1986年10月に心臓手術をしました。約1ヶ月の入院でした。退院の時、担当医師は、2、3ヶ月すると身体に説明のできない倦怠感を感じるかも知れませんが、その時は必ず知らせてほしいと言われました。しかし、私にはそんな倦怠感、何もありませんでした。それから6年目になって、近くの個人診療所で、血液検査をすぐにしましょうと言われました。心臓手術をした患者さんは、血液検査をする必要があると告げられて、その時にC型肝炎と分かりました。手術をした医師は今故人ですので、フィブリノゲンを許可した厚労省と製薬会社に対して、強い憤りを感じます。故人となった医師に対しては、今は何も申し上げることはありません。むしろ、心臓手術の成功に感謝しております。
97	薬を使用した事を説明してほしかった。
98	仕方がなかったと、当時は思うようにしました。そうでないと、やりきれない。
99	当時は、医師も安全な薬と信じて使用したと思う。医師もある意味被害者だと思う。
100	フィブリノゲンの使用について、知識、技術が十分ではなかった。
101	手術時、出血が多量だったと聞いており、止血に製剤を使用した（製剤の使用は、知らされていなかった）と思います。当時は仕方がなかったと思い、医師には特に恨みはありません。
102	血液製剤を安易に使用していたのなら、残念です。
103	産科の先生からは、一言の説明もなかった。母子手帳にも書かれていなかった。一言説明がほしかった。命が助かったんだから、良しと思いなさいと、しょっちゅう言われた。
104	製剤の有効性を知っていて使ったのかどうか、聞いてみたいと思うが、確認できないでいます。
105	当時の医師に対しては、何とも思いません。
106	既に亡くなっているので仕方がないが、薬のリスクを告知してほしかった。
107	当時、使用したことは、仕方がないことだと思いますが、その後、証明をお願いした時、病院長が、病院が使用したことも、患者に投与したことも覚えていないと言ったことに、腹立たしさを感じました。
108	私や家族に対し、輸血時の説明を全くしなかったことと、輸血後の血液検査も行わなかったことは、医師としての義務を怠った結果であり、非常に残念な結果だと思う。人の命に携わる医師は、きちんとして説明してほしかったです。
109	医師の判断で、出産時に使われたフィブリノゲン製剤。子供が誕生した喜びが一転して、その後、爆弾を抱えるとは思いませんでした。
110	殺したい。
111	出産の時の緊急の止血剤だったので、仕方がないことかもしれないけれど、たった一度の製剤で、長い入院生活やインターフェロン治療など、とても辛い人生を送り、今でもまだそんな生活をしています。
112	投与時は、良かれと思って使っていたと、その時の医師に聞きました。肝炎のリスクは知っていたけれど、止血をして助けたかったと、正直に話していただき、納得しました。
113	国と企業の問題で、医師に対しての思いは、良くも悪くもない。
114	当時、医師も、血液製剤が肝炎と関係があることは、判っていなかったと思うので、恨む気持ちはありませんでしたが、その後、カルテ開示、薬剤使用証明に関して問い合わせた時の態度は、まるで非協力的で、嘘をつかれたこともあり、良心の呵責はないのかと、腹が立ちました。
115	使用してはいけない製剤と知って使用した行為は、腹立たしく思う。
116	その方法がベストだったのならば、仕方がないという気持ちもある。
117	血液製剤をやたら使用し、感染被害拡大した知識不足。責任を感じて、もっと勉強してほしい。
118	子宮筋腫の摘出手術は、それほどの大手術とは思わず、1ヶ月もすれば、また元の生活に戻れると信じ、主治医に託したのに、医師は、フィブリノゲン製剤の恐さなど全く認識がなかったのに、がく然とした。
119	医師も勉強が必要。
120	多量出血のため、命の危険と比べると、フィブリノゲンの使用は、仕方がないとは思っています。しかし、使用する必要が確かだったのですか？聞きたいです。
121	その当時は、それしかなかったのでしょうか？助けていただいたのに、言えることではないのでしょうか。
122	命を助けていただき、ありがたく思っております。
123	当時は、フィブリノゲンを使用する手段しかなかったと思うし、私を一生懸命助けてくれたので、感謝の気持ちしかありません。
124	使っていいものか悪いものか、よく確認して使ってほしかった。
125	当時は、その治療が最高だとして、使用したと思う。
126	自分自身が、22年前にC型肝炎に感染した事を知らなくて、つい数年前の血液検査で分かった。その当時分かっていたら、3人目の子供を、生まれて2時間で亡くす事はなかったと思います。
127	亡くなられましたが、事前に、カウンセリングや気になる事とかの対話が沢山あれば、違う方向だったかもしれないと思います。
128	出産時、危険な状態だったので、使用は仕方がなかったと思われる。
129	命を助けるための事なので、しょうがないとは思いますが、もうちょっと考えて使ってほしかった。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
130	当時は、これらの薬が止血剤として、優れた薬とされていたので、使用したこと自体には責任はないと思っている。しかし、手術後に血清肝炎となっても、それとC型肝炎問題が結びつかず、気付かずにいる患者もいるようなので、使用した医師側からもっと、働きかけをお願いしたいと思っている。
131	帝王切開時、出血多量で、「もう覚悟して下さい」とまで言われたそうです。その状況を考えれば、仕方のない事だったと思います。
132	私の一生を、元通りにしてほしいです。
133	その当時としては、仕方のない事だと思っている。
134	産後、すぐに医師から肝臓障害を起こすかもしれないと、言われましたが、当時は何の事だか分かりませんでした。その当時、医師がその事を分かっていたなら、お産前に話をしてほしいです。
135	人命のためと言うが、それが本心であったのだろうか。
136	フィブリノゲン投与の副作用は、内科の医師により報告されました。418人のリストに載っていたということで、H19.11.24に、病院より話がありました。出産時、フィブリノゲンを投与した産婦人科の医師からは、何の説明もありませんでした。内科も産婦人科も、同じ病院の医師でした。今ではカルテもなくなりましたが、時々、病院で会う機会があっても、フィブリノゲンについては、一切話がなかったです。
137	どうして、本人の許可なく使用したのか。前もって、説明があっても良かったのではないかと。
138	当時は、医師にも周知していなかったとはいえ、過去に疑いのある患者には、積極的に知らせてほしいです。
139	命を救うか、使用するのかの選択だったと言われると、納得せざるを得ませんでした。
140	当時の止血剤としては、最良だったのか？他の薬ではダメだったのかと思う反面、この薬で死なずに済んだと思うと、複雑な気持ちです。
141	フィブリノゲンを使用しなかったら、私はこの世にいません。使用したことについては、何も言えません。
142	その時の治療法としては、最善を尽くしてもらったと思っています。
143	フィブリノゲン使用に対する説明はなかったが、止血しなければ生命の保障がないと聞かされたので、その時は納得したつもりでした。
144	命の尊厳を考えれば、フィブリノゲン製剤を使わざるを得なかったと思います。製剤に対する認識は、どの位あったのかは聞きたいです。
145	フィブリノゲン製剤が体に入った次の日から黄疸になり、それからずっと具合が悪かったです。お医者さんは何も言いませんでした。国でそう決めたのでしょうか？
146	当時は何の説明もないまま、5年後入院した時（違う病院）、C型肝炎だと初めて言われ、大変ショックを受けました。「なぜ、いつ、どこでC型肝炎になったの？」。
147	出産後、簡単な処置のみで、通常よりも多少出血が多かったからと、そのままの状態分で分娩台の上に放置したままにされ、医師は隣家の自宅へ帰ってしまった。その際、見習いの看護学生1人が残り、その間、更に出血が続き、意識不明の状態になって、家族の訴えで慌てて治療にかかった。医師が適切な処置、経過観察等をしてきてさえいれば、肝炎にならずにすんだはず。今回の訴訟に対しても、必要な書類提出を拒否したり、人間として許せないような人が、今でも平然と医師を（医療）続けていること自体が、絶対に許せない！！他人事のように、人命を軽く考えた国や製薬会社に対しても、同じ気持ちである。
148	当時の危険な状態での使用だったので、しょうがなかったと思います。特に恨むことはありません。
149	私は重篤だったので、やむを得ず使用したのだと思う。私の場合、病院の金庫にカルテが保存されていて、とても感謝している。
150	発症後数年は肝炎の「か」の字も、ミドリ十字の「ミ」の字も見なくなかった。何軒も医者を廻ったが、大病院ほど驚き呆れる対応だった。
151	患者を助けるために、国で認定した薬品を使用した医師に対しては、何も言うことはありません。
152	当時は、C型肝炎に感染するということを知らずに使用したので、仕方がないと思っています。
153	安易に使用したことは、許せない。
154	当時、止血剤として、知らずに使用していたので、仕方なかった。
155	医師は、よく分かっていたのではないかと。今でも、婦人科ではお世話になっている。
156	私の出血を止めるために使用されたのだから、医師に対しては何も思わない。
157	使用するにあたって説明なし。使用後も説明なし。命に別状がないのに、なぜ第Ⅸ因子を使用したのか。自分（医師）の身内にも使用するのか聞きたいですね。
158	当時の処置としては、仕方がなかったかも知れないが、きちんと説明してほしいです。肝臓に影響があることなど、詳しく教えてほしいです。薬害の事など最近の情報を知った上で、治療にあたってほしいです。
159	命を助けてくれてありがとうございます！

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
160	出産直後は、血液製剤を使用した事を知らずに、輸血したことで肝炎になったのは仕方がない、治療をして治ればいいのだと、楽観的に考えていた。しかし、肝炎は急性期から慢性期へと……。次第に不安でいっぱいになりました。今から先、進行していく病気と向き合い、妻として母親として、やっつけていけるのか。肝炎は感染症の病気であるがゆえに、その苦悩は筆舌しがたいものがあった。この 20 数年間、助けていただいたことを感謝するよりも、こんなに苦しむのだったら、なぜあの時に死なせてくれなかったのだろうという思いです。特に葉は、人を幸せにも不幸にもするものです。製薬会社との馴れ合いが、結果原因となります。私達のような患者をださないように、取り組んでほしいです。
161	当然のように使い、患者を無視し、使った事さえ知らされなかった。憤りを覚えた。
162	フィブリノゲン製剤を使用せずに、救命する方法がなかったかどうかを聞きたい。
163	緊急安全情報を早く知っていてくれたら、使われなかったかもしれないと思うと残念です。早く情報を知る努力をしてほしいと思う。
164	血液製剤を使用されたことは、訴訟を起こした時、カルテを見て初めて知りました。とにかく、出産後出血が多量で、子宮摘出し、生死の境を越えての事で、肝炎も輸血後肝炎と聞いていたので、医師に対しては、命を助けてくれた思いで一杯でした。今も、医師に対しては何とも思いません。
165	感染当時、フィブリノゲンで肝炎が発症することを、医師は知っていたのではないかと思います。同じ産婦人科病院で、フィブリノゲンによる治療で発症した人が、私以外にもいたからだ。国が、使用中止や別の治療方法などを迅速に、強く指導していたら、肝炎の感染は防げたと思う。医師は、人の命と直接向き合っているのだから、安易に使ってほしくなかった。
166	効くと言われて（製薬会社）使用して、結果 NG だった時点で上へも（国、製薬会社）下へも（被害者）、早急に訴追したり、今でも謝罪できていないのは何なのか。それも大部分の医師がそのままということは、人道的にも劣る。
167	許せない。恨んでいる。
168	医師からは、出血を止めるために使用したと聞きました。そう言われると、医師を恨むわけにもいかないとも思います。
169	当時、医者は薬害の認識はなかったと思うので、未来に向かって治療法の研究等に、努力していただきたい。
170	仕方のない事だったのかなあと感じる。
171	1987 年後半には、フィブリノゲンの使用中止をしている外科医が大半であったにもかかわらず、不勉強で使用した医師、病院に不信感を持った。
172	青森の集団感染の 3 ヶ月後に投与されたことに、憤りを禁じ得ない。医療現場での安全確認を怠らないよう、徹底した下さい。
173	フィブリノゲンを使用しなければ、出血多量で助からなかったかも分からないと思うと、複雑な気持ちです。
174	医師は、フィブリノゲンを打てば肝炎になることは、知っていたと思う。でも、打たなければ患者が死ぬかも知れないと思って、打ったのだと思います。
175	当時としては、やむを得ない処置だったと思う。悔やんでも、以前の体には戻れない。命を救ってもらって感謝すべきなのかなあ？
176	分からない。本当に分からないんです。
177	使用薬剤について、よく勉強してほしかった。
178	たとえ緊急だったとしても、副作用の説明はしてほしかったと思います。家族も待機していたのですから、どちらかを選ぶとしたら、家族からの輸血を望んだと思います。産後退院する時に、医師から「もしかしたら肝炎になるかもしれない」と言われましたが、それでは遅すぎました。
179	フィブリノゲンを使用しなければ、手術ができない状態ではなかった。安易な医師の判断によって使用された。憤りを感じる。
180	使用した医師には何とも思いません。私の場合は、C 型を教えてくれた先生に、「治ったからいいだろう」と言われ、がく然とした。医者の中にも、自分の事しか考えていない人もいるんだと感じた。
181	当時はずっと許せない気持ちでしたが、今は、医師もある意味被害者だったのかもという思いになってきました。
182	使用後に出血が始まったのだから、予防のためにと、使わなくてもよいものを体に入れられたのに、「生命を助けるためには、仕方がなかった」と言い訳しないでほしい。生命を預かる者として、責任をもって医療に従事してほしい。
183	命を助けていただいたので、感謝しています。
184	その当時では、仕方がなかったと思う。
185	フィブリノゲンを投与した時、それ以外に私の命を救う方法はなかったのかどうか、聞きたいです。しかし、30 年以上前のカルテを保存してくれたおかげで、和解できたのは良かったです。
186	いつ進行するのか、いつも不安がつきまとう。インターフェロンの治療を受けるのが怖い。
187	その当時は、止血剤としてフィブリノゲンが常用されていたと思うので、仕方ないと思っています。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
188	使用する時に、明確に使えてほしかった。良い薬があるからだけだった。
189	昭和 44 年頃の事ですし、その時は医師も分からなかったと思います。私の命を守るため、仕方がなかったのだと思います。
190	止血のためにフィブリノゲンを使ったのだから、仕方がないと思います。使っていなければ、大量出血で死んでいたのかも知れません。C 型肝炎になって大変ですが、それも運命かなと思います。
191	その時は、医師にとって最善の処置をしていただいたのかと思っています。でも、あ那时的の苦しみ、恐怖感、絶望感は、二度と味わいたくないです。
192	止血のため、仕方がなかったのかな。でも、もしかして違う医師であったなら、違う方法をとってくれたのかも・・・と、ちょっと複雑な気持ちである。
193	出血がひどかったので、当時は普通だったと思っている。
194	出産中に、何も分からない時に言われても・・・?このような医師、病院スタッフを信じられません。
195	害があると解った時点で、すみやかに使用を中止してほしかったです。私の場合、時期が解りません。
196	使用して肝炎になる人が多いので、検査をさせて下さいと言われてたが、分かっていたら使用しないでほしかった。
197	質問に答えてほしい。
198	この薬を使用した時は、私の命が危なかったので、助けてもらい、医師に対しては、有り難がったと思っています。
199	当時の治療法としては、最善方法だったと思いますので、責任は問いかねると思います。
200	医師は、患者に十分納得できる説明をしてほしい。
201	産後の急な大量出血ため、第 1 に救命、第 2 に子宮温存のために、ありとあらゆる止血方法を試みられた結果ですので、担当医には感謝しております。
202	その当時として、最善を尽くしてくれと思うので、憤りは感じてはいません。
203	当時としては、認められていた製剤であったし、効いたのか効かなかったのかは分からないが、生命を助けてもらい感謝している。
204	当時は無知で仕方がなかった。
205	あの時代、この方法しかなかったのだろうと思ったりもします。
206	当時、もう少し分かりやすく本人、家族等に説明してほしかった。本人は急だったので、家族にはきちんと。
207	当時は、エイズも感染の恐れがあったのに、予防的にフィブリノゲンを使用したことに、今でも許せない気持ちが強い。父や夫が医師でなければ、訴訟も考えたほどです。
208	当時としては、止血目的に使用したのだから、仕方がなかったと思いますが、使用したことも告げられず、まして、危険性について何の説明もなかったことについて、とても憤りを感じます。
209	お医者様には、私の命を助けてくれたことに、本当に感謝しています(すごい出血だったので)。
210	出血を止めるのに仕方がなかった。
211	22 年前に手術を受け、途中出血多量のためフィブリノゲンを投与。医師からの説明もなく、入院生活 7 ヶ月。災難と思って諦めて下さいの一言でした。今年 1 月、肝臓がんが見つかり、1/4 肝臓を切除しました。この怒りを誰にぶつけて良いのか。
212	仕方のなかった事だと思うし、カルテが保存してあった事、こちらの申し出に対し、病院側が誠実な対応してくれた事には感謝している。
213	国の許可で使用したので、仕方がないと思う。
214	当時としては、やむを得ないと思う。
215	個人医院の医者も、常に薬の事を勉強してほしいものです。
216	説明もなく使用されて、何十年も気が付かなくて、自分はわがままで身体が弱いと思って苦しんできました。それも 2 回も使用されて・・・。先生方は、自分の家族にも使用するのかしら?と思いました。後でどうなるのか分からないものを使用する時の気持ちはいかがなのか、知りたいと思っています。
217	薬害がある事を分かって使用したモラルを問いたい。
218	使用した時は、この薬を使わなければ命がなくなると思い、使ったのだと思います。まさか、このような事になるとは・・・。医師からの連絡でこの事が分かり、これからの自分の生き方を考える機会を、与えてもらったように思います。
219	当時使用した事実を隠さず認め、それを使用した患者に、少しでも早くその事実を伝えるべきではないか。
220	医師は関係ないと思います。
221	その当時は、この治療がベストと思われて処置されたと思っておりますので、医師に対しては、何も申し上げることはありません。
222	説明もないまま使用され、感染した事には納得がいかない。でも当時、国の対応だったことが、一番の問題だと思います。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
223	出血多量で生と死の間にあり、やむを得ない事態だと思う。この件に対して、生命が助かったことを感謝しなければならないと自負している。
224	知らずに使用したことで、恨むことはできませんが、残念です。
225	妊娠中毒症になり、入院していました。34週目、少しずつ出血したにもかかわらず、外来があるからと診察してもらえず、点滴をしながら、先生が来るのをずっと待っていました。不安で不安で・・・数時間後、突然大出血して吐いて吐いてと悪化したら、やっと先生が来て、急遽帝王切開になったが、その時にフィブリノゲンを使用された。悲しいことに、やっとできた子は体内で死んでしまい、今でも重いものがある。もっと早く出してくれていたなら、生きていたのに。「ドクドク」と鳴った心音が、今でも耳に残っている。
226	担当医師から、当時の止血剤としてはフィブリノゲンが一番良い薬だと聞かされ、命が助かったんですよと言われた。命を救っていただいたことに感謝しています。
227	産院は、「出血多量で死ぬより、肝炎でも生きていてよかったですよ」という考え、態度だった。逆らえず、とても悔しい思いだった。説明もなく、何も分からないまま感染していた。
228	フィブリノゲンを使われていた事を、原告になるまで知らなかったのもっときちんと説明してほしかったと思う。
229	私の場合は出血多量で、もしフィブリノゲンを使っていなかったら、38年前に死に至っていたと思っております。
230	どうしてあの時フィブリノゲンを使用すること、他人の血が入っていることを、言ってくれなかったのか。使用后1ヶ月近くも高熱を出し入院していたのに、原因不明の熱ということで終わり。本当に、感染を疑うことはなかったのでしょうか。
231	ずっと仕方がないことだと思ってきた。医者は懸命に治療したという思いは今もあるが、ただ、現場の医師が薬や治療に対して、もっと学習したり、疑問を持つことはできなかったのだろうか、とも思ったりする。
232	薬の事は医師は知らなかったし、私に薬害患者ということを知らせてくれたので、感謝している。
233	治療上、仕方がなかったと思うが、薬に対する知識を、もっと持つべきだと思う。
234	当時の状況を考えると、仕方がないのかなと思うが、フィブリノゲンを使うことに対してのリスクがどの程度あったのか、医師が知っていたかどうか知りたい。
235	命の恩人です。
236	投与した時点で、肝炎の危険性を知らせてほしかった。産後の1ヶ月検診で、すでに尿が茶色だったのに、助産婦が検査したからか、肝炎を発見してくれなかったのも、治療が遅れた。
237	使わざるを得なかったのか、複雑な気持ちです。
238	その時は、フィブリノゲンを使用することがベストだったと思います。
239	使用を許可してしまった国の責任が重く、医師を責めることはできないように思います。
240	立場上、追跡調査を確実に実施してほしい。
241	知識不足と事なかれ主義の医師にかからざるを得ない状況。安易に、簡単に使用することについて、医師免許を安定した高給取りの免許とせず、日々適性が判断できる免許（更新制）にしてほしい。
242	使用当時は結果が分からなかったのやむを得ないが、薬害と知った時点で、病院全体で通告の要があった。
243	あの時は、私の命を救うためにして下さった事で、当然の措置であったと思います。
244	本当に必要であったか、後の事を考えて使用してほしかった。
245	その当時は、仕方がない事だったのかもしれないが、使った事に対しては、悪い事をしたと思ってほしい。
246	私は当時、フィブリノゲンがどういう薬剤かというのを、まったく知りませんでした。医師の説明もまったくありませんでした。
247	出産時の大量出血に際し、命を救おうと必死に努力していただいた担当医には、今でも感謝している。ただ、日常医療の中でも、最良の医療を提供しているのかということ、意識していただきたいと思う。
248	一生懸命治療していただいたので、感謝です。
249	当時の状況では故意とも思われず、仕方なかったとも考えられるが・・・。
250	当時は、その方法が一番良いと思い使用したのであれば、仕方がないのかもと思う。カルテを公開してくれたことに感謝している。
251	子供は死んでしまい、悲しい思いをしている時、私が助かっただけでも「感謝してほしい」と言われ、すごくショックでした。
252	止血をするために、懸命だったと思います。自分の状態が悪くて聞けませんでした。母親には肝炎が出るかもしれないと説明があったとのこと。C型肝炎とは知らなかったのも、すぐに治ると思っていました。
253	説明が全くなく使用された。出産時（予定日）がお盆に重なるため、無理に陣痛促進剤を使用した怒りもある。
254	無責任すぎる。
255	仕方がなかったと思います。
256	何かをしなければ命がなかったし、とても複雑です。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅲ因子製剤を使用した医師に対して
257	どの方でも仕方がなかったことでしょうか。でも、自分の家族には使ったのでしょうか？
258	肝炎になったのは悲しい事だけれど、死ぬか生きるかの手術をしていただいて、今まで幸せな時間を過ごせてくれたのは、先生のおかげだと思っています。
259	医師の言葉から投薬に至るまで、患者は治ることを信じて治療を受けます。快方に向かうと信じて、命懸けで治療に臨むのです。だから裏切らないで下さい。こんな悲劇は、どうか繰り返さないで下さい。
260	命に関わる大手術でのごことなので、仕方がないと思います。
261	当時の医師としては、仕方がなかったと思います。
262	出産時に使用されていたのですが、長女を産み幸せに思えますが、現在まで病気との闘いはまだまだ終わっていないことを、実感しています。死に至るまで、娘 2 人に世話をかけるのですから、本当に胸が痛む思いです。
263	先生には今も診察してもらっている。90%以上無理だった手術が成功して、現在に至っているのです。感謝しています。
264	一時体がだるくて寝てばかりでした。でも今は少し体調がましで、がんばっております（母の介護）。
265	何も言えません。
266	第 1 子出産時と同じ位の出血だったのに、第 2 子の時にどうして使ったのかな？と思うこともあります。
267	私が出産した病院は、何人もの肝炎患者を出しているのに、漫然と同じ薬を使う。薬の使用に、もっと責任をもつべきだったと思うし、発症当時、責任を患者側に押し付け、責任逃れをした対応に、今でも心底怒りを覚える。
268	責任を重く受け止め、丁寧に説明をしていただきたい。
269	その時の治療方針に文句を言う事もないが、医師に対しても怒る気持ちもない。
270	出産時の出血の止血剤として使用したであろう・・・と思っていたので、その当時は仕方がなかったと思っています。
271	C 型肝炎に感染するとは思わなかったと思うので、何も思いません。
272	生命を救うためには、それしかなかったのかなあと、いつも思っています。
273	生きてこの病気の苦しみや悲しみを味わうのだったら、知らずに去った方が良かった。
274	その時は、その治療がいいと思って下さったと思いますので、仕方がなかったと思います。
275	当時の医師は、この薬が危ないものと分かっていたのか？不明なので、医師に対しては何も言えません。私の場合大量出血で、すごく良いチームワークで治療していただいて、とても感謝しています。
276	その時には、その処置が一番良い方法だったのだと思う。その処置のおかげで、私は助かったのだと思うので、医師に対しては責める気持ちはない。
277	使用前に説明してほしかった。使用前にできなかったにしても、使用後速やかに患者に対し、説明責任があったのではありませんか。16～17 年も経過して、それを書面で知らされた。人の命を預かる立場の病気、医師の質を問いたい。
278	治そうと思って使用したので、仕方がなかったと思う。先生は知らなかった事でしょうから。
279	国が認めていたのだから、仕方がないと思う。
280	フィブリノゲンは当時、止血目的として使用されたので、仕方がないと思う。
281	命を助けるために投与されたもので、医師には特に責任はないと思いますが、当時は、C 型肝炎がどんな病気か分からなかったのも、仕方がなかったと思っています。
282	出血多量で、止血目的の治療をしていただくことには、全く不満はありません。ただ、専門的に知識のある方や多くの情報が集まる機関に対しては、納得がいかなず残念でなりません。
283	当時、医師の方々も、この製剤に関しては、ただ必要不可欠な物としか認識していなかったもので、責めることはできない。
284	全国的、世界的な問題で、医師に対しての意見はあるが、その薬の使用を許した国に対して言いたいです。
285	産婦人科医は、私の命を救うには、フィブリノゲンの止血剤を使用するしかなかったと言いました。産婦人科医も被害者なのかなと思います。
286	医者は皆いい方でした。現在もよくして下さい、尊敬もしています。病院は、素晴らしいスタッフで感謝です。
287	S62 年当時としては、使用されたのも仕方ないと思う。少なくとも、悪意ではないでしょう。
288	その時は何も知らなくて、命を助けていただいたと喜んでいました。何の説明もなく、検査もなく過ぎていきました。今になって悔しい思いです。
289	製薬会社の言葉をうのみにせず、副作用等もよく理解し、本当に必要な治療なのかを判断してから、使用していただきたい。
290	オペの医者は最良の手術で、早期社会復帰を目標にしてくれましたが、製剤問題の認識はなかった結果である。ショックが大きい。
291	残念な結果となりましたが、当時、手術や治療等、一生懸命やっただき感謝しています。
292	当時は、フィブリノゲン製剤を使用するとは聞いていなかったし、まだ分からない時代だったと思うので、仕方がないとの気持ちもある。心臓手術の止血剤には、効果があったということなので、理解はしている。

No.	問 6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
293	当時としては、医師に責任を持たせることはできなかったと思うので、医師に対する気持ちは何もない。カルテ等情報提供に協力的で、好感が持てた。
294	責任ある説明がほしい。
295	入院時に熱がでて、薬の副作用ででているのに、製剤使用が分かった。何で教えなかったのだ。
296	医師もよく分かっていなかったと思うので、やむを得ない。
297	以前はウィルスが分からなかったもので、仕方がないと思いますが、それより、輸血のし方を変えてほしいです。まず最初に自分の血液を 200cc~400cc 取っておけば、このような問題は減ると思います。たとえ使用しなかったとしても、検査済みの血液だから、ウィルスがあるかないかも分かりますし、本人にとっても安心だと思います。
298	安全なものを使用してほしかった。
299	当時、私の命が助かったこと。インターフェロンで、少しは良くなりました。
300	肝炎に感染する可能性があることを、話してほしかった。
301	「知ってて使ったの？」どんな気持ちで使っていたのか知りたい。
302	その他に出血を止めることができなかったのか？
303	本当に知らなかったのなら仕方がない。通達を乱発しすぎる国（厚労省）のせい。
304	医師に知識があって、この薬を使ったのか聞きたいが、もう世界されていて、真意は分からない。
305	薬の副作用について勉強してほしい。使用しなかった医師もいる。
306	出産時に命は助けていただいたが、今後なりうるであろう病気の事を、しっかりと教えてほしかった。
307	もし使用していなかったら、出血多量で死んでいたかも知れないし、複雑な気持ちです。
308	使用する前に、説明がなかったのは悔しい。
309	製薬の在庫があったからと、使用してほしくなかったし、説明もなしは絶対に許せない。
310	医師に対しては、何も思いません。当時の一般的な治療であったと受け止め、精一杯治療していただいたと思っています。
311	生きていることに感謝しています。
312	大動脈瘤の大手術で、命を救ってもらえたことに感謝している。当時の医師がフィブリノゲンの危険性を把握されていたかどうか分からないので、責める気持ちは全くない。
313	医師も肝炎の重大さが分かっておらず、気軽に使用したと思います。正確な情報が伝わっていたら、使用しなかったかもしれません。
314	出産後、縫合不全で出血し、再度縫合し、出血量が少なく、点滴されて気分が悪いから止めてほしいと頼んだが、鎮静剤を打たれ、フィブリノゲンを打たれたのが、昨日のように思い出され、病院に何回か連絡したが、対応が悪く、今でも不信感が残る。
315	止血のために投与したので、仕方がないと思う。
316	フィブリノゲンの投与の説明が、当時されなかったように思う。詳しく説明していただきたいかった。
317	何故使用したのか？使用しなければいけなかった理由。
318	どうしてフィブリノゲン製剤を使ったのか、説明がほしかった。出産後 1 ヶ月検診の際、血液検査をしてほしかった。
319	緊急の治療は時間との闘いですが、治療の説明、特に治療のリスク等の説明、同意を取ることの徹底。
320	使用した医師は、当時、フィブリノゲン製剤の危険性をどれだけ認識していたのか分からないが、投与する時、リスクの説明をしてほしかった。
321	手術をする前にフィブリノゲンを使用するという説明はなかった。輸血は受けてない。診療記録に出血の有無は記されていない。私の場合、フィブリノゲンを使って止血する必要があったのか、疑問に思う。使われた事が残念でたまらない。
322	仕方がないことだと思います。
323	分かっていたら使ったならば、人として、医師としてダメだと思う。
324	当時はやむを得なかったと思っています。
325	優秀で誠実な医師。当時、適切に治療して下さったと認識しています。ただ、フィブリノゲン認定の 1987 年の認定時報告してほしい。
326	輸血をした時もフィブリノゲン投与の時にも、本人、家族に何も話がなかった。
327	出産時の大量出血だったので、仕方がないと思いました。
328	仕方がなかったのでは。事前に相談してほしい。
329	当時とすれば、止血剤がなかったならば、私は現在生存していなかったと思っています。当時の先生は、この止血剤を信用して使用したと思っています。
330	外に別の薬がなかったのか？
331	生きるために使った薬で、その命さえもなくなるかと思ったら、悔しかったけれど、医師に対しては何も言うことはありません。